

# I 教師の心構え

## 教師の最も重要な仕事は授業です。

### ● 責任感と緊張感をもって、一度きりの授業に臨む。

- ・ 教師には、子ども一人一人の豊かな学びの実現に向け、最大限の努力をする責任があります。
- ・ 「できた、分かった」といった喜びや学ぶ楽しさなどを授業で味わうことは、子どもの成長のエネルギーとなります。
- ・ 子どもにとって、その授業は一生に一度きりです。教材研究や準備を十分にして、緊張感をもって授業に臨みましょう。



### ● 子どもと教師で成り立つ授業を目指す。

- ・ 授業は、教師の指導と子どもの主体的な学習が折り重なって成り立つことが重要です。
- ・ 「身に付けさせたい力」を明確にして、授業を考えましょう。さらに、授業の過程が「身に付けさせたい力」を育むものになっているかを、子どもの姿を思い浮かべながら検討しましょう。
- ・ 教師が指導しすぎることによって子どもの思考場面を奪ったり、主体性を育むという名目で放任しすぎたりしてはいけません。授業時の子どもの反応に呼応した仕掛けや指導などを行うことで、子どもの主体的な学習をさらに進め、その授業で目指す力の育成を図りましょう。

### ● 「学びのときめき」が授業の中にありますか。

- ・ 「明日も学校に来て、先生の授業を受けたら、何かいいことがありそう。」と子どもに思わせながら授業を終えるには、どうしたらよいでしょうか。  
教えるべき知識・技能をしっかりと教え、練習により習熟させる。また、子どものつまずきや粗削りな表現などを起点として、子どもの思いや考え、判断や表現といった子どもの力を存分に引き出す。その中で、その授業で身に付けさせたい力を定着させましょう。同時に、自身の変容や学びを実感させ、学ぶことの充実感、達成感などを味わわせる授業を目指しましょう。



#### 学びのときめきにつなげる授業工夫(例)

- ・ 自分で考えたり、表現したりする時間・場がしっかりある。
- ・ 少し困難な課題だが、達成感がある。
- ・ 分からないときは、友達に聞いたり、教師に質問したりできる。
- ・ 自分の考えを素直に発言しても受け止めてくれる雰囲気がある。
- ・ 発表したことに対し、意見や質問が返るなど、交流がある。
- ・ その時間のまとめを、交流の中から生み出す。
- ・ 授業中に学んだことや自分の変容が実感できる。
- ・ 学んだことが次の問いを生む。



## 授業は仕掛けの芸術。常に授業力の向上に努める。

- ・ 自分が「知っていること」「できること」と、「指導すること」は別物です。子どもと教師で成り立つ授業にするためには、授業力が欠かせません。
- ・ 自分から進んで、先輩、同僚、書籍などから学び、実践することにより授業力を高めていきましょう。

### 授業力向上のために①「授業を見る」

- ・ 授業力を高めるには、授業を多く見て具体的なイメージを得ることが大切です。
- ・ 視点や課題をしっかりと持って参観しましょう。
- ・ 授業を見るときは、教師の動きを見るだけでなく、子どもの動きを丁寧に見て、そこから効果と改善点を考えることが大切です。
- ・ よい授業を見る機会を、自分から求めていきましょう。

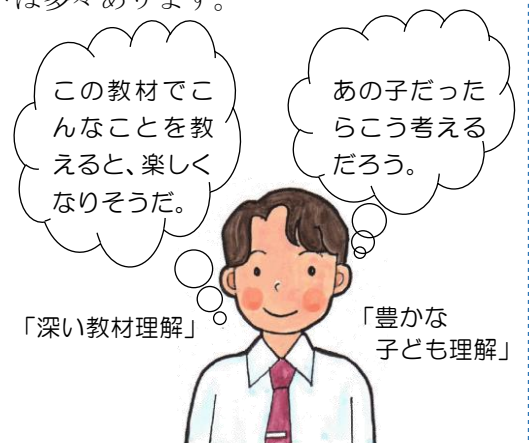


### 授業力向上のために②「授業を見せる」

- ・ 公開研究会だけでなく、日常の授業を見せ合う機会を持ちましょう。
- ・ 他者から自分の授業を評価されることで授業力は向上します。
- ・ 公開授業後の自己省察を今後の授業に生かしましょう。
- ・ 子どもは、授業の身近な評価者でもあります。子どもの授業中の様子や反応を見ながら、また、子どもの授業評価も参考に授業改善に努めましょう。

### 授業力向上のために③「教材研究を楽しむ」

- ・ 教師が面白いと感じて行う授業は、子どもにも面白さが伝わりやすくなります。好奇心を持ってものを見ようとすると、日々の暮らしの中にも授業のヒントは多々あります。
- ・ 書籍や研究冊子等を参考に先行事例に学びましょう。先行事例を参考にし、よいところを取り入れて授業を行うことは授業力向上に役立ちます。
- ・ 子どもの予想される反応を踏まえて授業を構想しましょう。その際、授業中の発言、態度、表情、ノートや様々なテストでの誤答の内容などの日々の学習状況を把握した上で授業を考えることが大切です。
- ・ 深い教材理解と豊かな子ども理解を踏まえて、授業の中で子どもに「身に付けさせたい力」を明確にしましょう。



## ワンポイント！

### 子どもの心に火をつけよう

「今日の授業でこんなことを学んだ。」「あっという間に終わった。」「授業中わくわくした。」こんな感想は、教師にとつてうれしいものです。「凡庸な教師はただ伝える。よい教師は説明する。優れた教師はやって見せる。偉大な教師は子どもの心に火をつける。」(ウィリアム・アーサー・ワード)

研究授業参観や教材研究などを楽しみ、授業中の学びや子どもの変容を喜んでいる姿を子どもに見せましょう。